



利根町

清水の舞台裏に積まれた枯れ木の山「こっかう所」(ゲンシ) (クワガタやカフトムシ) が隠れてるんや」



石段の上と下でじゃんけん。「ええっ、チーで2つしか進めへんの？ あたしらは「チ・ヨ・コ・レ・エ・ト」で6つやったよ」とお嬢さん。

間は、あいにく短かった。

「4年生のときに空襲が始まりましたので、ウーッと鳴ったら防空壕へ入る。5年生の4月には、美山町へ学童疎開です。勉強もないけど遊ぶこともなく、自給自足の畑づくりやタキギ拾いに明け暮れました」

当時のエピソードを、氏は克明に覚えていた。脚氣のために宿坊から学校への1里(約4km)を通えなくなった友がいた。学校近くの寺に移る彼のため、夏休みの1日を割いて、同級生たちが身の廻り品を運んだ。体格の良かったたっちゃんや敷布団の係。小学生にとっては身に余る大役である。下を向き、身体を二つ折れにして歩いたが、どんどん他の子もまたとの間隔は離れてゆく。汗を掌でぬぐい、焦って踏み出すと大きな布団が田んぼ道に引きずる。

「その情けない格好は、今でも目に浮かぶようです。見るに見かねたんでしよう、酪で農作業をしてはったおはあちゃんが腰ひもを取り出して、くるくるっ」と

背負い直してくれるのかと思ったら、自分の背中にゆわえて、すたすた歩き始めた。たっちゃんはあわてて付いてゆく。お寺の門前まで来ると「ほん、こっからは自分で行き」と、おはあちゃんは布団をたっちゃんの背中に返した。

「忘れられませんよ。運んでくれるだけ、背負わせてくれるだけの親切ならある。しかし、重荷を運んでくれたうえに、最後に私に花を持たせてくれたんですから」

この事件は、氏の人生観を養うのに役立ったばかりか、後年手狭になった魁の工場を新設する段に、美山町という遠隔地をあえて選ばせたきっかけにもなっている。

「美山町は第二の故郷です。親元から初めて離れた子にとって、嫌なことや辛いことは山とあったけど、お蔭で成長できたんやから」

昨年その地に建設した工場では、とくに高齢者を募って働いてもらっている。あの時のおはあちゃんには恩返しができないが、地域の活性化にすこしでも役立てば、と思つてのことだ。

激しい戦争が終わり、京都の町は幸いほとんど無傷で残ったが、食糧不足は深刻だった。

京ごころ

大宮人のひそやかなる贅沢。
西京白みそに舌鼓を打つ。



人生は漂泊、と詩人は言うけれど、旅から帰って家のお味噌汁をすすると、涙が出そうにほどとすることがある。やさしい香りと、こくのあるまろやかさに包まれると、日本人に生まれてよかったなあと、柄にもない感情がこみ上げる。

そんなお味噌汁のルーツは、大陸から伝わった「醤（ひしお）」、飛鳥時代というから、平安建都よりさらに百年前である。なかでも、西京味噌とも呼ばれる白味噌は京都独特のもので、上品な甘味と洗練された旨みが、京料理に欠かせない。このまったりし

た都の風味を産んだのは、実は室町時代のお公家さんの発想だった。甘酒をヒントに、米を大豆の倍以上に仕込む。発想も贅沢だが生まれる味も贅沢このうえない。砂糖が貴重品だった時代、甘味は身の貴いよりは、魂のあこがれだった。公家や茶人に愛された白味噌の風味は、やがて都人にも知られ、よそゆきの菓子や節句のご馳走になる。年の始めのお雑煮と懸祭りのつばい、花びら餅。都のささやかな贅沢は、大宮人の嗜用品への情熱から生まれたのだ。宝町一条にある本田味噌本店

本田味噌本店



京都市上京区室町通一条558
電話番号●075 (441) 1121
営業時間●午前10時～午後6時



町には、人を育てる機能がある。家のなかの閉ざされた空間では起こりようのない体験に、人は多く街角や路地で初めて遭遇し、子どもは子どもなりの智慧を持ち寄ってひとつひとつ、乗り越えてゆく。



音羽の湧からの流れは、地下を通り音羽川となつて、半兵衛本店の前で鴨川に続く。



「うちの近所は、大仏殿を建てるときに高野山から降りてきた上人さんが住まわはったので「上人町」。石垣の人数が集まったのが「石垣町」で、鍛職人の住んだのが「鍛屋町」や「ほかにも塗師屋町、大坂町、棟梁町と、みな由業がある。



ひとまわり成長して帰ってきたたっちゃん、自宅前の鴨川で釣りに励む。オタマジャクシを追った国民学校のころとはちがひ、栄養補給が目的だ。河原で手にした棒切れで水面を叩いて、逃げる魚を手掴みにする。家から大きなハンマーを持ち出して、魚の潜む石を叩いて「失神魚」を行なうと、かなりの大きさのオイカワやハイショコが獲れた。土手で柔らかな草を摘んで、おひたしにする。

「戦前は、お茶屋の台所でおすもじをよはれたりして、羽振りが良かったんやけどね」五条坂の洛東中学校へ進んだたっちゃんの行動半径は広がり、清水寺が単になった。当時は「清水の舞台」にも、一人か二人しか人の姿は見えない。参拝料など言わずもがなだろ。門前で茶店を営む同級生の洋子ちゃんの家で、ラムネを飲んだりお水をふるまってもらったときの甘酸っぱい思い出は、今も昨日のことのようによみがえる。

余談になるが、この取材で氏の健脚ぶりに実は驚かされた。豊國廟の五百階段を息切れもせず登り、清水寺の石段をまっすくに背を立てて歩いてゆく。聞けば、地元の人々は毎朝6時から7時に清水さんを参拝する習慣があるとか。寺社詣では、なまなかなシヨキングよりも、よほど効果があるようだ。



(プロフィール)
玉置辰次
魅と湯華の製造卸しと小売りの老舗・株式会社半兵衛代表取締役。貞教小・洛東中から日吉高校へ進む。十一代目当主として多忙な日々のかたわら、アラスカへのキング・サーモン・フィッシングは毎年欠かさない。

いった名前に感わされて、地元の人すら、その連続性はわかりにくい。たとえば山道つたいに行けば、清水寺の鎮守である地主神社の右手からは將軍塚へ、更に靈山観音や円山公園へと抜けられる。その秘密を発見したときの少年の胸は、どんなに高鳴ったろう。「京に鄙あり」のことわざを知っていたかどうか。たっちゃんにとっていちばんの「すいば」は、人の歩かぬ京の山道だったのだ。